

▼東海

カメラ部会と湯遊会

共同企画第一弾

「あげき温泉」と

「万葉の里紫陽花撮影」

阪田 晃(THK)

カメラ部会は、6月企画として紫陽花撮影を予定していました。撮影場所をどこにしようかと考えていたところ、温泉地巡りを実施している部会「湯遊会」が6月企画として、三重県いなべ市のあげき温泉と万葉の里公園散策を予定しているとの情報を得ました。

この万葉の里公園は、万葉集にちなんだ140種の植物が和歌と共に楽しめる場所として知られていて、特に6月は約3000株の紫陽花が見事とのこと、カメラ部会は即、共同企画を提案。温泉と撮影を一举に楽しめる企画が立案されました。

参加者は湯遊会から5名、両部会所属2名、カメラ部会から2名の合計9名でした。コロナ禍以降、減少の一途をたどっていた両部会では久しぶりに参加者が増加となりました。  
名古屋からJR関西線で桑名へ。

近接する三岐鉄道北勢線・西桑名から終点の阿下喜(あげき)を目指しました。北勢線はナローゲージの単線で、昭和初期のカラーの復刻車両が運行するなど「撮り鉄」にはワクワクするような路線で、約1時間の旅を楽しみました。



北勢線・楚原駅にて、上り電車がすれ違うのをのんびり待合せる一行



終点から無料の巡回バスで約10分の「万葉の里公園」へ。当日は梅雨本番の時期にもかかわらず天候は晴れ。連日の日照りで紫陽花は見ごろをやや過ぎているようで残念でしたが、園内を約1時間かけ、両部会の会員が散策しながら撮影を楽しみました。  
万葉集に詠まれた「紫陽花の八重咲く如く 弥つ代にをいませわが背子 見つづ偲はむ」の句碑が添えられた紫陽花もあり、皆さんアングルを工夫しながら今日一枚を求めてシャッターを切っていました。  
湯遊会の会員も、スマホ片手に好きな色や好きな種類の紫陽花の撮影を楽しんでいましたが、これをカメラ部員がアドバイスするなど、共同企画のメリットが窺われる場面も見受けられ、次回以降の企画の可能性を感じました。  
この後は、湯遊会待望のあげき温泉へ。カメラ部会にとっても、撮影の汗を流すには最高の贅沢を味わう時間が来しました。この温泉は、かけ流しアルカリ性天然温泉で肌触りが柔らかく、別館にはサウナラウンジもあり、若いサウナファンがたくさん詰めかけている

そうです。入浴後は全員ビールで乾杯、両部員最高の一日でした。  
この企画の成果を受け、次回の共同企画は10月、湯遊会のひまわりの湯一泊温泉旅行に合わせ、カメラ部会の治部坂(じぶさか)高原・紅葉撮影を実施しようと考えています。これを機に参加者が一人でも増えてくれることを、両部会とも期待しています。

